



当別町

概要

当別町は、地形が南北に長いほか、東西に市街地が二極化しており、また、札幌市や江別市といった都市に隣接していることなどによって、自動車への依存が非常に高い地域であるが、コミュニティバスの運行、公共交通利用促進策の実施、公共交通サービスの情報提供等により、町内交通モードを自動車から公共交通へ転換させる。

「当別ふれあいバス」の運行

- 当別町、北海道医療大学、北洋交易株式会社、医療法人社団とうべつ整形外科の4者による費用負担により、コミュニティバス「当別ふれあいバス」の運行を継続。
- JRあいの里公園駅からJR最終便に接続した「深夜バス」を新たに運行。
- バスを利用して図書や農産物・郵便物を輸送する「物流システム」の導入を検討。

設備の充実

- バス停留所のデザインの改善や待合所の設置を進める。
- ノンステップバスの導入を検討。
- JR石狩当別駅及び石狩太美駅等において、バス・JRの運行状況等を表示する情報提供システムを整備。
- バス車内の音声アナウンスシステムを導入。

公共交通の利用促進策の実施

- 住民等に対し、利用促進パンフレットやニューズレターの配布、講演会やセミナーの実施、定期的なアンケートの実施等。
- 小中学生に対し、「交通すごろく」や「交通日記」による交通教育を実施。
- 使用済みてんぷら油の回収システムを導入し、BDFを製造して、バスの燃料とする。
- ラッピングバスの運行。
- ノーマイカーデーを実施。



当別町地域公共交通活性化協議会 計画事業の取組状況

主な事業内容

協議会開催状況

5回開催

分科会等開催状況

-

左記開催状況はH21.1.30現在

コミュニティバス実証運行

- 当別ふれあいバスを運行し、基礎ルート・ダイヤの充実を図り、潜在需要の喚起、交通空白の解消、JR連携の強化を実施

設備の充実

- バス停留所及び待合所の整備
- バス・JRの発着時刻、運行状況等をモニター等で発信する情報提供システムを整備
- バス車内に音声案内システムを導入、また、音声に併せて停留所名、乗継情報等を表示するモニターを整備

公共交通の利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

- モビリティマネジメントの実施
- BDF回収システムの導入
- 利用感謝ツアーの実施
- ラッピングバス、移動展示会の実施
- 交通マップの作成
- 調査・研究等
- OD・アンケート調査の実施
- 物流システム導入調査の実施

実施状況

コミュニティバス実証運行

- 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで運行
- 平日9系統86便、土日祝日2系統31便
- 企業等による送迎目的の旅客を限定したバス運行と、町が運行する福祉バス及び町が補助をしている路線バスを一元化し運行
- 週末にJR最終便に合わせて、予約型の深夜バスを接続運行

設備の充実

- 待合所整備については、2カ所整備予定
- バス停整備については21年度実施予定
- 情報提供システムについては、情報発信方法等を検討し、21年度又は22年度実施予定
- 音声案内等については、3月より実施予定

公共交通の利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

- 小中学生向けモビリティマネジメントを4回実施
- ニューズレターを第7号まで発行
- 11月、12月に廃食油回収キャンペーンを実施
- 利用感謝ツアーを2コースを実施し、ツアー参加者へのアンケート実施
- 移動展示会を2～3月実施
- ラッピングバスについては、21年度に実施検討
- 交通マップについては、3月配付予定
- 調査・研究等
- OD調査を8月、12月に実施
- 交通マップ配付時にアンケート調査を予定
- 1月中旬～2月中旬に車内及び図書館利用者へアンケート調査実施

自己評価のポイント

基礎的な路線の構築に努めた結果、利用者数・運賃収入は過去2年間に上回り、ふれあいバスが地域公共交通として、住民に浸透しつつあると評価できる。

二次評価のポイント

自己評価のとおり、自立性・持続性を持った事業となるよう期待する。